授業概要

この授業のテーマは、ユーモアを通して学ぶ英語圏（特にイギリス）文学である。このテーマのもと、イギリス文学における主な作家・作品を取り上げ、英語表現を学ぶために作品の一部抜粋に触れつつ、その文学世界を講義する。文学にまつわる基礎的事項（時代的及び多様な文化的背景、文学用語等）も学習する。なお毎回の授業の最後に、授業内容に関連した問題演習（提出）を行う。

授業計画

第 1 回	イギリス文学とユーモア—代表的作家・作品とユーモアの意味について—
第 2 回	ジェフリー・チョーサー—中世の詩『カンタベリー物語』を中心に—
第 3 回	ウィリアム・シェイクスピア—史劇『ヘンリー四世』を中心に—
第 4 回	ベン・ジョンソン—気質喜劇『癖者ぞろい』を中心に—
第 5 回	ジョナサン・スウィフト—風刺小説『ガリヴァー旅行記』を中心に—
第 6 回	ヘンリー・フィールディング—近代小説誕生と『ショウゼフ・アンドルーズ』を中心に—
第 7 回	ジェイン・オースティン—恋愛小説『高慢と偏見』を中心に—
第 8 回	チャールズ・ラム—エッセイ集『エリア随筆』を中心に—
第 9 回	チャールズ・ディケンズ—非科学的小説『ピクウィック・ペーパーズ』を中心に—
第 10 回	ルイス・キャロル—ナンセンス小説『不思議の国のアリス』を中心に—
第 11 回	P・G・ウッドハウス—ユーモア短編小説集『比類なきジーヴス』を中心に—
第 12 回	オスカー・ワイルド—風習喜劇『真面目が肝心』を中心に—
第 13 回	R・D・ウィングフィールド—ミステリー小説『クリスマスのフロスト』を中心に—
第 14 回	A・A・ミルン—児童小説『クマのプーさん』を中心に—
第 15 回	第 1 回～第 14 回のまとめと基礎・重要事項確認
第 16 回	学期末試験

到達目標

この授業の到達目標は、イギリス文学という英語圏文学に関する基礎的な知識（主要な作家・作品、文学用語等）を身につけることである。

履修上の注意

授業開始後 30 分以上超えた場合は欠席扱いとするので、注意すること。

予習・復習

授業の予習・復習については必要に応じて指示するが、出来る限り、授業で取り上げる作家の作品を読んでおいてほしい（訳本で可）。

評価方法

学期末試験（65%）、第 2 回から第 14 回に課された問題演習（25%）、授業参加（10%）。

テキスト

教員作成のプリントを使用する。また Power Point 及び DVD 等も活用する。